



## 履修上の注意

---

1. 科目履修にあたっては、各自の専攻に関する科目を優先的に選択することにより、4年間にわたって一貫した履修のコースを設定しなければならない。
2. 一般に同一科目を再度登録・履修し、重ねて単位を修得することはできない。ただし、2～4年次対象の講義、3年次対象の演習および「文化史学特別演習」は、再度登録・履修し、重ねて単位を修得することができる。
3. 前年度までに修得すべき必修科目に未修得のものがある場合は、他の科目に優先してそれらの科目を修得すること。
4. 「文化史学特別演習」は、夏期休暇中に海外あるいは国内研修旅行を行う科目である。
  - ①前期登録期間に登録する。
  - ②通常の単位登録以外に研修旅行に参加するための旅行社への手続き、費用の納入等が必要である。
  - ③研修旅行の参加希望者が募集人員に満たない場合、また、現地の状況によっては実施できない場合があるため、卒業必要単位数に数えないでおくこと。  
詳細についてはシラバスを参照すること。
5. 本学科に編入学もしくは学士入学した者も、文化史学科専門科目履修要項に従って単位を修得しなければならない。ただし、各自が入学した年次の前の年次までの専門の必修科目は選択科目とし、本学科専門科目を合計62単位以上修得しなければならない。なお、専門科目の履修については本学科の指導にしたがうこと。
6. 転学科した者は、転学科した年次の前の年次までの専門の必修科目は選択科目とし、本学科専門科目を合計62単位以上修得しなければならない。なお、専門科目の履修については本学科の指導にしたがうこと。
7. 資格取得希望者は、諸資格課程の履修要項（165ページ～）を参照すること。

### 1年次

1. 「文化史学序説」および「文化史学基礎演習」a, bは1年次の必修である。
2. 「文化史学基礎演習」a, bは6クラスに分かれて、小グループの演習形式で行う。全グループが歴史・美術史・思想・宗教の各分野を順次学ぶ。  
各学生が出席するクラスは、ガイダンス期間中に配布する資料で発表する。この科目を1年次に未修得で2年次以降に履修する場合は、本学科の指導にしたがうこと。
3. 歴史概説については西洋・東洋・日本の各地域についてa, bで表記される前・後期開講科目が設けられている。必修科目の単位として、この中から同一地域の概説a, bの2科目4単位以上を1～2年次において修得しなければならない。可能であれば、2年次までに複数地域の概説8単位以上を修得することが望ましい。

### 2年次

1. 概論については、「史学概論」「哲学概論」「宗教学概論」「美術概論」「聖書学概論」の中から2科目4単位以上を2年次において修得する。
2. 入門演習については、歴史・美術・思想・宗教の4分野11科目に分かれている「文化史入門演習」の中から2科目4単位以上を2年次において修得する。ただし、原則として前期1科目・後期1科目を履修すること。
3. 歴史概説については西洋・日本・東洋の各地域についてa, bで表記される前・後期開講科目が設けられている。必修科目の単位として、この中から同一地域の概説a, bの2科目4単位以上を1～2年次において修得しなければならない。可能であれば、2年次までに複数地域の概説8単位以上を修得することが望ましい。

### 3年次

1. 演習については、2科目4単位以上を3年次において修得する。ただし、原則として前期1科目・後期1科目を履修すること。
2. 講義および発展講義については、12単位以上を2～4年次において修得する。複数の分野にわたって履修することが望ましい。

#### 4年次

1. 「卒業論文」および「研究法演習 a, b」は4年次の必修である。「研究法演習」a, b では卒業論文についての指導が行われるので、同一教員の演習を履修すること。
2. 4年次においても、卒業論文のテーマと関わりのある演習、講義を必修単位数に関わりなく履修することが望ましい。
3. 講義および発展講義については、12 単位以上を 2～4 年次において修得する。複数の分野にわたって履修することが望ましい。

## 卒業論文

---

卒業論文については、80 ページ「卒業論文、卒業プレゼンテーションの手続き」とともに、学科で定める手続きに従うこと。